

次期文京区アカデミー推進計画の基本理念

1 現行の文京区アカデミー推進計画における基本理念について

(1) 現行計画の基本理念

区内まるごとキャンパスに —「文の京」、豊かな学びと交流を生み出すまち—

本区には、日本の近世、近代の教育において大きな役割を果たした昌平坂学問所、そして「アカデミー推進計画」の名称の由来でもある 19 の大学をはじめとした教育施設・教育機関が数多く集積しています。また、森鷗外や夏目漱石、樋口一葉をはじめとする、近代文学を築いた多くの文人ゆかりの地であり、さらには特別名勝である小石川後樂園や六義園等の庭園、由緒ある寺社や近代建築も点在しています。その一方で本区は、響きの森文京公会堂（文京シビックホール）や生涯学習施設（アカデミー文京等）、文京ふるさと歴史館、森鷗外記念館等の文化・生涯学習施設はもとより、東京 23 区でも有数となる 10 箇所の区立図書館、そして文京スポーツセンターや小石川運動場等の 7 つのスポーツ施設を屋内外に整備しています。

人材の観点からも、大学、事業者、NPO等、様々な場において多くの人たちが活躍しており、さらに、外国人居住者や様々な国から訪れている留学生が多くいることも特徴です。このように多彩で豊かな文化・歴史・学びに関する資源を有する環境を大切に保存するとともに、区内で暮らし過ごす人たちが、自分や人のため、地域のために有効に活用し、「いつでも・どこでも・だれでも」が学び、交流することを目指します。そして、それら学びと交流を通じ、多様な人たちが互いに触発しながら、「文の京」として築いてきた価値を継承し、さらには新しい価値を創造することで新たな「文の京」を区民等とともに生み出すようなまち—「区内まるごとキャンパスに」—を実現します。

このような考え方から、前計画の基本理念「区内まるごとキャンパスに」を引き継ぎつつ、副題を『「文の京」、豊かな学びと交流を生み出すまち』と改定しました。

2 次期文京区アカデミー推進計画の基本理念の作成にあたって

(1) 文京区の地域特性と目指す方向性

①文京区の地域特性

- 19の大学をはじめとした数多くの**教育施設・教育機関**のある文教の地として知られています。
- 森鷗外や夏目漱石など近代文学を築いた多くの文人たちが暮らしたゆかりの地であり、小石川後樂園や六義園など歴史ある**文化施設、観光資源**が集積しています。
- 特別区全体よりも**年少人口と生産年齢人口**の割合が高く、外国人人口は約1万人で、留学生が多くいます。

②社会情勢の変化

- 新型コロナウイルス感染症**の影響により、テレワークの推進やWebを通じたコミュニケーションツールの利用が拡大し、人々が時間や場所を選ばず参加可能な取組や活動が生まれています。
- ICT**（情報通信技術）を最大限に活用し、「超スマート社会」を実現するための「Society5.0」が提唱され、実現に向けた取組の推進が求められています。
- 平成27年9月に「**持続可能な開発目標 SDGs**」が国連サミットで採択され、地球上の「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向けて、各国が様々な取組を実施しています。
- 健康寿命の延伸により**人生100年時代**が到来し、人々が健康に活動し続けられる社会の実現が求められており、生涯にわたる学習機会の創出や、健康な生活の維持が重要となっています。

③「文の京」総合戦略で示されている考え方

- 「文の京」総合戦略は、本区が目指すべき主要課題を明らかにした「重点化計画」で、財政的な裏付けを伴う区の最上位計画であり、令和2年3月に策定しました。この戦略は、広く区民や区議会の参画により創り上げた基本構想（平成22年6月策定）の理念を継承しており、区政のあらゆる分野や区民等の地域活動における共通の指針となっています。基本構想を貫く理念は以下の通りです。

①みんなが主役のまち

区が区民、地域活動団体、非営利活動団体、事業者などと対等の関係で協力し、互いを尊重しながら持てる力を発揮できるまちを目指します。

②「文の京」らしさのあふれるまち

学ぶことに深い愛着と強い誇りを持つとともに、区と区民を含む新たな公共の担い手と力を合わせて発展させていく自治のまちを目指します。

③だれもがいきいきと暮らせるまち

子ども、高齢者、障害者、外国人をはじめ、地域社会を構成するさまざまな人たちが人権を尊重し、互いの立場を思いやりながら行動するとともに、一人ひとりが**個性豊かにいきいきと暮らせる**まちを目指します。

④現在のアカデミー推進計画から継承・発展させる考え方

- 「区内まるごとキャンパスに」の考え方を継承します。
- 文京区が有する**資源を保存・活用**し、だれもが**学び、交流**することを目指し、学びと交流を通じて、これまで築いてきた**価値を継承**し、新たな**価値を創造**します。
- さらに、昨今の社会情勢の変化を踏まえると、単一の分野における取組だけではなく、**分野間の連携による取組も重視**し、様々な課題に対応することが必要です。

(2) 次期文京区アカデミー推進計画の基本理念

区内まるごとキャンパスに

— (仮) 豊かな学びと交流を創る多様性を活かしあうまち「文の京」 —

本区は、「アカデミー推進計画」の名称の由来である数多くの教育施設・教育機関のある文教の地として知られています。また、森鷗外や夏目漱石など近代文学を築いた多くの文人ゆかりの地であり、小石川後樂園や六義園など歴史ある文化施設や観光資源が集積しています。

これまで、本区は、区内に有する多彩で豊かな文化・歴史・学びに関する資源を保存・活用して、だれもが学び、交流することを目指し、学びと交流を通じて「文の京」としての価値の継承と新たな価値の創造のため、様々な取組を実施してきました。

一方で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大、ICT（情報通信技術）の技術革新の進展、「持続可能な開発目標 SDGs」の採択、人生 100 年時代の到来など、目まぐるしく社会情勢が変化しています。全国的に少子高齢化が進むなか、本区は年少人口と生産年齢人口が多く、在住外国人には留学生が多いことから、今後さらに人々の働き方やライフスタイル、行政に対するニーズなどの多様化が進展すると考えられます。

このように、多様なニーズへの対応が求められる中で、本区が将来にわたって文化・歴史・学びに関する資源を保存・活用し、学びと交流を通じて価値の継承と創造を続けるためには、引き続き「区内まるごとキャンパス」の考え方を重視し、著しく変化する社会情勢に柔軟に適応しながら、本区の有する資源や環境にも多様性を認め、互いに活かしあうまちを目指す必要があります。

本計画では、「学習活動」「スポーツ」「文化芸術」「観光」「国内・国際交流」の5つの分野の取組を一体的に展開し、さらに分野間の連携による取組も重視しながら、多様な地域課題に対応するとともに、主役となる一人ひとりが、いきいきと楽しく自分らしく学び、交流することのできるまち「文の京」を創り上げます。

以上のことを踏まえ、前計画の基本理念「区内まるごとキャンパスに」を引き継ぎ、副題を『豊かな学びと交流を創る多様性を活かしあうまち「文の京」』と改定しました。